

高齢者活躍支援事業費

事業評価個票（事業実施：平成30年度）					部局名	商工労働部		
短期アクションプラン	テーマ	テーマ1 郷土愛を育み未来を築く子育て支援・多彩に活躍する人づくり						
	施策	施策4 多種多様な能力発揮の促進						
	目的	年齢や障がいの有無、国籍を問わず、一人ひとりが自らの個性や意欲、能力をあらゆる分野で発揮し活躍できる社会をつくる。						
	目標指標 (R2)	民間企業(50人以上規模)における障がい者の実雇用率の全国順位	10位以内					
	策定時の実績	26位(H28年度)	現状	25位(H29年度)	主要事業	高齢者の活躍の促進		
事業名	高齢者活躍支援事業費			担当課・担当	雇用対策課雇用対策担当			
事業開始年度	平成19年度			事業終了(予定)年度	未設定			
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	・シルバー人材センターにおいて、高齢者が能力を発揮できるよう、新分野の就労開拓や新たな就業機会を図るための県連合会及び地区シルバーの事業を支援する。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	・高齢者就労活性化事業：地域のニーズを踏まえた高齢者の就業機会の拡大を図るため、地域に密着した事業を実施している各シルバー人材センターから企画提案を募集し、採択された事業を支援するもの ・シルバー人材センター連合会支援事業：公益社団法人山形県シルバー人材センター連合会が行う普及啓発、安全就業及び就業機会の確保及び開拓する事業等を支援するもの							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由：連合会及び地区シルバーの支援を通じて、高齢者が能力を発揮できる就労機会の確保を図るため							
予算額・決算額 (単位：千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	高齢者就労活性化事業	6,765	6,765					
	シルバー人材センター連合会支援事業	9,781	9,781					
	計	16,546	16,546	0	0	0		
財源内訳 (単位：千円)	国庫支出金							
	繰入金							
	その他特定財源							
	一般財源	16,546	16,546					
	計	16,546	16,546	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	高齢者就労活性化事業採択事業	活動実績	事業	21	23			
		当初見込み	事業	20	20	20	20	-
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	シルバー人材センター就業延べ人員	成果実績	千人・日	1,026	986			
		目標値	千人・日	977	987	997	1,007	-
		達成度	%	105	100			
関連事業								

事業目標の考え方(事業目標設定時)

シルバー人材センターの会員数が前年度より1%程度ずつ増加していることから、当該年度の就業延べ人員(見込み)についても同程度増加するものとして設定。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	シルバー人材センターの支援は、高齢者が能力を発揮できる環境づくりのために重要であり、優先して取り組むべき事業であるとともに、県が行うべき事業である。就業延べ人員は目標を達成しており、期待する成果を得られている。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	A	
	期待する成果が得られたか。	A	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	—	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	高齢者就労活性化事業は、20件の見込みに対し23件の採択を行った。外部委員を入れた審査委員会により企画提案を審査しており、選定は妥当と考える。シルバー人材センター連合会支援事業についても、補助対象経費は真に必要なものに限定されている。
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A		
の役割 妥当 性担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	県として目的に照らし必要不可欠な事業を実施している。
今 改 善 点 等 課 題	高齢者の就業機会の確保等のため、引き続きシルバー人材センターの支援に取り組んでいく。		

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。

B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。

C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。

—: 該当しない